

# 音楽科における新しい学習評価

北海道音楽教育連盟 研究部

## 1 新しい学習評価の変更点

大きな変更点は、「音楽科の特質に応じた観点」から、「全ての教科等に共通する観点」となったことです。

これまでの評価の観点【旧】	新しい評価の観点【新】
音楽への関心・意欲・態度 音楽表現の創意・工夫 音楽表現の技能 鑑賞の能力	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度

新旧を比べると、見た目は大きく変わりましたが、【旧】の「音楽表現の創意工夫」と「鑑賞の能力」の趣旨は、そのまま新の「思考力、判断力、表現力等」に引き継がれています。「音楽表現の創意工夫」と「鑑賞の能力」に係る指導と評価を〔共通事項〕アと関連付けて行うことは、これまでと同じです。

## 2 音楽科における「評価の観点及びその趣旨」

### (1) 知識・技能

「知識」と「技能」は一体的に示されていますが、音楽科の指導と評価は基本的に別々に行います。

【新】では、「曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解する」ことが目標や評価の観点に示されるとともに、それに関する具体的な内容が、歌唱、器楽、音楽づくり・創作、鑑賞の事項イに示されています。

【新】の「知識」は、音符、休符、記号や用語、楽器の名前などのような単なる事柄を覚えるのではなく、子ども一人一人が、音楽に対する感性を働かせて感じ取り、理解するものとされています。したがって、教師が一方的に曲の特徴等を教えるのではなく、児童生徒自ら曲想と音楽の構造を結び付けていくことができるように指導と評価を工夫することが大切です。

「技能」の観点の冒頭には、「表したい音楽表現するために必要な」と示されています。このことは、児童生徒の思いや意図が存在していることが

であることを示唆しています。実技テストで楽譜通りに演奏できたことのみで見取るものではないことに留意してください。

### (2) 思考・判断・表現

「思考力、判断力、表現力等」に対応する評価の観点です。この観点で求めているのは、音楽表現を工夫し、思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしたりする「思考力、判断力」と、その学習の過程や結果を言語活動等で表す「表現力」です。

指導と評価の場面では、言葉で上手に伝えられなくても、よい表現を工夫している児童生徒の姿を見ることがあります。教師が児童生徒の音楽表現から、そのよりどころとなる考えを見取り、言葉で価値付けることは、有効な指導と評価になります。一方、いわゆる「音楽で表現する力」は「技能」の観点で評価することに留意する必要があります。

児童生徒の思考・判断のよりどころになるのが「音楽を形づくっている要素」です。曲の特徴や、つくる音楽を特徴付ける「音楽を形づくっている要素」を明確にし、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えることが、音楽表現を工夫する学習や、曲のよさなどを見だし味わって聴く学習において、必要不可欠です。

### (3) 主体的に学習に取り組む態度

目標の「学びに向かう力、人間性等」に対応する評価の観点です。「学びに向かう力、人間性等」には、2つの部分があります。

- ・「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況として見取ることができる部分
- ・「感性、心情、情操、音楽の生活化」など、観点別評価の観点や評定になじまず、個人内評価を通じて見取る部分

評価の観点として示されているのは、前者の「主体的に学習に取り組む態度」になります。

この観点の指導と評価では、次の2つの側面を評価することが求められます。

①「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうという側面

②粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

したがって、ある場面に限定して実施するのではなく、題材を通じて指導と評価を行い、学習や指導の改善に生かすようにするとともに、題材の終末で記録に残すことにつなげていくことが大切です。

### 3 音楽科における評価規準の作成と評価の実施のポイント

学習指導と学習評価の計画は、基本的に各題材レベルで次のように進めます。

内容の特徴などを踏まえ、題材の目標を設定し、題材の目標に基づいて評価規準を設定します。題材構成では、次の①から④の「内容のまとめり」を基本とします。

①「A表現」(1)歌唱(ア、イ、ウ)及び〔共通事項〕(1)ア

②「A表現」(2)器楽(ア、イ、ウ)及び〔共通事項〕(1)ア

③「A表現」(3)音楽づくり・創作(ア、イ、ウ)及び〔共通事項〕(1)ア

④「B鑑賞」(1)鑑賞(ア、イ)及び〔共通事項〕(1)ア

先日実践した小学校第2学年の題材を例に、題材の目標や評価規準の設定について説明いたします。

○題材 「はくのまとめりを かんじとろう」(第2学年)

主教材『ミッキーマウスマーチ』『メヌエット』

○題材の目標

(1)曲想とリズムや拍の関わりについて気付く。

(2)リズムや拍を聴き取り、2拍子や3拍子の音楽が生み出すよさやおもしろさ、美しさなどを感受しながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、曲の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴く。

(3)リズムや拍に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む態度を養う。

○題材を扱う学習指導要領の内容

「B鑑賞」(1)鑑賞(ア、イ)及び〔共通事項〕(1)ア

(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「リズム」「拍」)

○題材の評価規準

知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①曲想とリズムや拍との関わりについて <u>気付いている</u> 。	思①リズムや拍を聴き取り、2拍子や3拍子の音楽が生み出すよさやおもしろさ、美しさなどを感受しながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、曲の楽しさを見いだし、曲全体を味わって <u>聴いている</u> 。	態① <u>行進や踊りの音楽のリズムや拍</u> に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に <u>鑑賞の学習活動に取り組もうとしている</u> 。



「手引」を参考に、内容のまとまりごとに題材の目標と評価規準を作成しましょう。

<評価の進め方>

**①題材の目標を作成する**

- ・学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- ・児童の実態、前題材までの学習状況を踏まえて作成する。



**②題材の評価規準を作成する**

- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」は扱う事項に即して設定。文末を「気付いている」「歌っている」「聴いている」「もっている」「取り組んでいる」のように、学習状況を見取るように調整する。
- ・「思考・判断・表現」の冒頭には、その題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択して示す。
- ・「主体的に取り組む態度」の冒頭には、その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとしたりする意志をもった

りできるようにするために必要となる、取り扱う教材曲の特徴や学習内容など、興味・関心をもたせたい事柄を記入する。波線部には、扱う学習活動を記入する。



**③「指導と評価の計画」を作成する**

- ・①、②を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
- ・どのような評価資料（児童の反応ワークシート、作品等）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。



**授業を行う**



**④観点ごとに総括する**

- ・集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（A、B、C）を行う。

**○指導と評価の計画（2時間）**

時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	主	
1	<p>◎拍のまとまりを感じ取ろう。            &lt;本題材のめあて&gt; 2拍子と3拍子の違いを感じながら聴きましょう。</p> <p>○『ミッキーマウスマーチ』を聴いて、リズムに合わせて体を動かし、2拍子の流れを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『ミッキーマウスマーチ』の曲全体を聴き、聴き取ったことや感じ取ったことを話し合う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【児童の反応例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・力強い ・手をたたけそう *楽しい感じ *元気な感じ</li> <li>・太鼓の音がした ・はずむリズム *歩けそうな感じ *うきうき</li> </ul> </div> <p>・『はしの上で』で行った手遊びをしながら聴き、2拍子の曲であることを確かめる。</p> <p>・マーチが行進曲であることを知り、曲に合わせて行進しながら聴く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【児童の反応例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太鼓の音に合わせて、元気に歩いたよ。</li> <li>・リズムに合わせて、はずみながら歩いたよ。</li> </ul> </div>			<p>① 観察（表情・行動）・発言</p>	<p>① 発言・記述</p>



### ○評価規準に則った学習評価

次のような「評価方法と見取りのポイント」を想定しておくことが重要。

<例>鑑賞の思考・判断・表現の場合

評価規準	リズムや拍を聴き取り、2拍子や3拍子の音楽が生み出すよさやおもしろさ、美しさなどを感受しながら、聴き取ったことと感じ取ったことの間わりについて考え、曲の楽しさを見だし、曲全体を味わって聴く。
評価方法	ワークシートへの記述、発言
見取りのポイント	2拍子と3拍子の音楽が生み出すよさやおもしろさ、美しさの違いを捉えているか。 拍、リズムに着目しているか。(思考・判断のよりどころ)
十分満足できる状況(A)の例	・『ミッキーマウスマーチ』がお気に入りです。どうしてかという、 <u>2拍子が行進にぴったりで、楽しいから</u> です。 ・『メヌエット』がお気に入りです。どうしてかという、 <u>3拍子がなめらかで、跳っているような感じがする</u> からです。(ワークシートの記述)
努力を要する状況(C)と判断されそうな児童への働きかけの例—改善のための働きかけ	よさやおもしろさ、美しさは捉えているが、音楽的な理由に着目できていない状況 ・曲に合わせて体を動かし、2拍子・3拍子に合った動きができていることを認める。 ・曲に合わせて既習の手遊びを行い、お気に入りの曲が何拍子かを確認するようにする。

### ○指導に生かす評価と学習状況を記録に残す場面との関わり

本事例で評価規準を設定して行っている評価は、評価規準に基づいて児童の学習状況をA、B、Cで判断し、一定期間(前・後期、年間等)の総括に集約する評価である。一方、教師は授業の中で常に児童の学習状況を把握し、それを基に児童の学習を充実させていく指導に生かす評価を行っている。指導計画や授業の展開において、このような指導に生かす評価と関わらせながら、評価規準に基づき、評価の結果を記録に残す場面に適切に位置付けていくことが重要である。

例えば、「主体的に学習に取り組む態度」は、題材全体に位置付け、各時間の学習活動に粘り強く取り組んでいるか、また、自らの学習を調整しようとしているかを継続的に見取るようにし、教師の指導改善につなげるための評価として位置付けている。この際、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で評価を行うことが必要である。

学習状況を記録に残す際には、本事例の評価規準を基にしながら、「おおむね満足できる」状況、「十分満足できる」状況を判断していくことになる。その際、必要に応じて、予想される子どもの姿を幅広く想定しておくことが効果的である。また、「努力を要する」状況と判断されそうな学習状況にある児童に対し、改善のための具体的な働きかけを講じて、「おおむね満足できる」状況となるように支援をすることも不可欠である。

#### 【参考資料】

教育音楽・小学版(2020年6月号)「音楽科における新しい評価」(津田正之) 音楽之友社

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(令和2年3月) 国立教育政策研究所

札幌市 教育課程編成の手引—小学校編—【第2学年】 札幌市教育委員会